不定期刊行　　第619号　2017.07.25

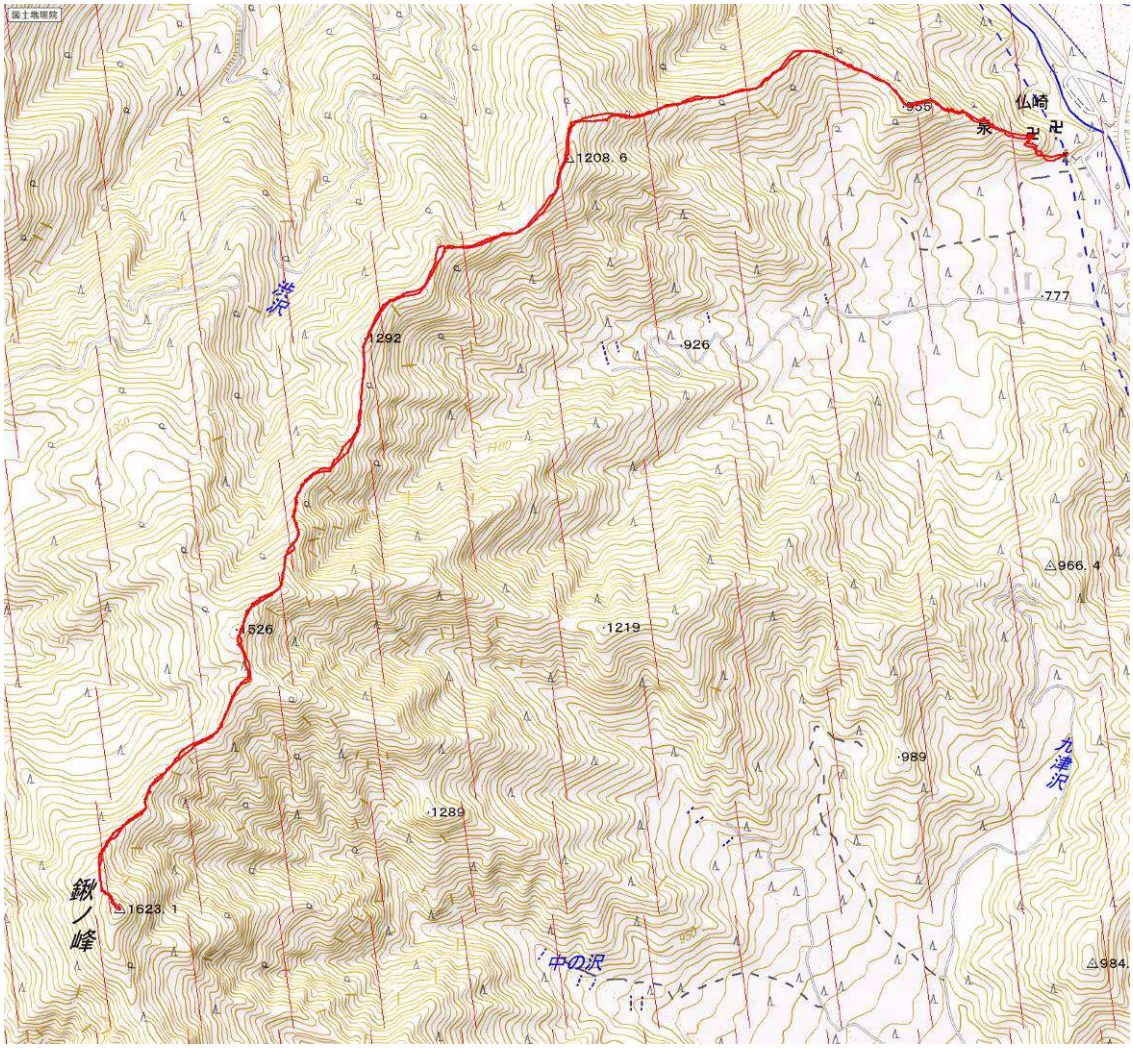
中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩

毎度おなじみの「鍬の峰」整備作業

大町岳陽高校山岳部にとって、学校の東にある鷹狩山（1170m）が日常トレーニングの山だとすれば、西の鍬の峰（1623m）は、山岳部ゆかりの山である。毎度おなじみのという表題を掲げたが、小生自身前身の大町高校に赴任して以来、この4年間で7回目（14年6月、15年4月、15年6月、15年11月、16年4月、16年11月、17年7月22日）の登山となる。うち2回は新人歓迎を兼ねた整備のための下見登山であり、残りの5回は今回も含めて、鎌とのこぎりを手にした登山道整備作業である。合併で大町高校は消滅したが、山岳部として大事にしていることの一つが「鍬の峰」整備作業である。2001年の大町高校創立100周年に合わせて行われた「登山道開拓事業」も、2015年には日本山岳遺産にも認定され、今年で17年目となった。

高校生が登山道整備をしているというのは、全国的にもまれなケースだと思う。僕はたまたま赴任したときに、連綿と続けられていた作業を引き継いだだけであるが、最初にこの山を開拓しようと目を付けた当時の顧問松田大氏の慧眼には今更ながら感服する。



さて、今年の作業は7月22日土曜日に行った。参加したのは、1年生7人2年生7人、顧問が3人の合計17人。今年は雪が多かった関係で、歓迎登山を鷹狩山で行ったため、1年生にとっては初見参である。8時に学校集合。出発前に全員で地図を読み、ルートを確認する。

8時45分には登山口に集結。9時、3班に分かれて移動開始。登山道は尾根沿いに付けられているが、通称ゴジラの背と名付けられた急坂を登りつめた1190mの尾根の分岐が最初の休憩場所。ここまでの標高差420m。この区間をおよそ1時間で登りあげるのはだいたいいつものペース。10分の休憩ののち出発。ここから道は概ね南西方向へと大きく向きを変え、いくつかの小ピークを越える。アップダウンを繰り返しながら、1526mの北峰まで1時間強のやや長い1ピッチ。

北峰は標高1526m。ここからが作業場所となる。昼食を摂ったのち、手に手に鎌をもっての人海戦術の笹刈りの始まりである。前回の作業は昨年の11月。それから半年しか経っていないが、笹の繁茂には驚かされる。隊全体が尺取虫よろしく、じりじりと前進していく。「僕の前に道はない。僕の後ろに道はできる。」と詠ったのは高村光太郎だがその言葉通り、前には道なし、背後に道ありだ。

しかし、人が多ければ進行も早い。実質的な作業時間はおよそ2時間。13:30には山頂に出た。ここに来るとやはり初めての1年生は歓声をあげる。前方には先週訪れた七倉ダムと後立山を望み、背後には大町市街が遠望できる。いつも学校を挟んで、登りなれた鷹狩山。「鷹狩山はあんなに低いのか」とは1年生の生徒の言。

明日23日は信州山の日、そして8月11日は山の日。山の恩恵をみんなで考える日を前に、今年もこの山に訪れてくれる人を迎える準備が整った。新しく部長になった2年生のA君の音頭で山岳部歌を歌い、13:50に下山開始。

自分たちが汗水たらして笹を刈った道を自分たちがまっさきに辿るとは、なんという至福の時か。14:20には北峰に到着。次いで、15:15にゴジラの背上部のジャンクションピーク。最後の急坂を降りる前に鐘つき堂で、鐘を鳴らして今回の整備作業が無事終わったことに感謝した。

16:15駐車場着。いい汗をかきました。